

改訂版 : 基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2007年3月31日改訂版

宇佐美 まゆみ

1. はじめに

本稿で提示する「基本的な文字化の原則(BTSJ)」は、「読みやすさ」を重視し、日本語表記の慣習にしたがって「漢字仮名まじり」で表記する。句読点も、基本的に、慣例にしたがって適当と思われる位置に打つ(詳細は「6.1 表記の原則について」参照)。

自然会話の定量的分析に適するように考案された BTSJ では、「発話文」を基本的な分析の単位とする。以下、発話文の認定の仕方、改行の原則、発話文終了に関する記号、「発話文番号」と「ライン番号」、表記方法と記号について順に述べる。さらに、BTSJによって文字化した資料を用いて行う分析例をも紹介する。

2. 発話文の認定の仕方

BTSJでは、「実際の会話の中で発話された文」という意味で「発話文」という用語を用い、基本的な分析の単位とする。これは、日本語では、スピーチレベルの分析など、「文」単位でコーディングをする必要があるものがあるためである。

「発話文」の定義は、会話という相互作用の中における「文」とする。そして、以下のように認定する。基本的に、ひとりの話者による「文」を成していると捉えられるものを「1発話文」とする。しかし、自然会話では、いわゆる「1語文」や、述部が省略されているもの、あるいは、最後まで言い切られない「中途終了型発話」など、構造的に「文」が完結していない発話もある。そのような場合は、話者交替や間などを考慮した上で「1発話文」であるか否かを判断する。つまり、「発話文」の認定には、「話者交替」、「間」という2つの要素が重要になる。

たとえば、1語の発話(例1)、文末が省略された形で言い切られた発話(例2)、話者が自分で発話の最後まで言い切らず言いよんだ発話(例3)や、第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した発話(例4)などは、話者交替や間があった場合は、「1発話文」として扱う。いわゆるあいづちや笑いも、話者交替や間などを考慮して「1発話文」であるか否かを判断する(例5)。

また、構造的には「文」となっているが、独立した1発話文とはみなさない発話もある。例えば、何かを思いつくときなどに用いられる「そうですね、歩くそうですねー、12、3分かかります。」などのフレーズは、先行部・後続部とまとめて「1発話文」とする(例6)。直接引用を含む発話文も同様である(例7)。さらに、同一話者による「そうです、そうです、そうです」などのような繰り返しも、「そうです」のみで「文」になっているが、それらのあいだに間がなく、繰り返されたものがまとまったものとして捉えられる場合は、それらをまとめて1発話文とする(例8)。また、「行きますよ、学校に」のような発話は、「行きますよ」と「学校に」のあいだに間がない場合は、まとめて1発話文とみなす。この発話は、結果的に倒置の形となっている(例9)。「行きますよ」だけでも「文」とみなしうるが、途中で相手の発話が入って話者が一旦交替したため改行され、複数のラインに渡っている発話も、同一話者によって発せられた「文」を成していると捉えられるものは、複数のラインにまたがる発話をまとめて「1発話文」とする(例10、「3. 改行の原則」を参照のこと)。

以下の各例において、見出しの説明が指す発話文を「→」で示す。説明が、「→」で指した発話文の中の一部を指す場合には、さらに該当する部分に波線を引いて示す(例6、7、9、12など)。また、以下の会話例では、話者はアルファベットの「A」「B」で示す(話者を表す記号に関しては、「6.3 プライバシー保護」を参照のこと)。各例文には、BTSJ独自の記号がついているところがあるが、その説明は「7. 記号凡例」を参照されたい。

例1 1語の発話文

- 1A あのー、わたしとき、あのちょうど丙午‘ひのえうま’の世代なんですよ。
→2B 丙午‘ひのえうま’?
→3A ええ。
4B 丙午‘ひのえうま’って、結構20、20、あ30ぐらいの方でしたっけ。

例2 文末が省略された形で言い切られた発話文

- 1A えっ、タイはどうしてそういうふう。
2B あのね、もともと日本語学科の卒業生なんですよ、(あっ)私。
3A え、こちらの学校?
4B ええ、[大学名称]なんですけど、でー、もう社会人を何年かしてるんですけど。

例3 話者が自分で発話の最後まで言い切らず言い淀んだ発話文

- 1A あのーなんも面白いことがない(く笑い)っという…。
2B どのあた、どのあたりですか?。

例4 第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に終了した発話文(7Aの発話により6Bの発話が最後まで言い切れなかったことが8B以降の発話で分かる)

- 1A 彼女…今度ね、紹介してもらうんだよね。
2B あ、まじで、何人目?、紹介してもらおう。
3A 高校入ってから(く笑い)3人目ほど。
4B く笑い)いい人は見つからない?。
5A 見つからないね。[低い声で]
→6B おれねー、中学んとき、く恋の×(く)【】。
7A 【】く早く(く)付き合いたいねー。
8B あ、まじで。
9B ほんとに?。
10B 付き合いたいと思ってるの?、おまえ。

例5 前後に間があり、1発話文とみなされるあいづちや笑い

- 1A まー、まー自分自身がもう、学校でたら、ねー、こういう学問の世界とは(く笑い)く笑いながら)ちょっと関係ない身分にあります(えーえー)ので、実用の世界にいる関係もありまして(あー)、なんかそういう研究をされ続けてるといのは。
→2B ははは(く笑い)。
3B 研究してるのかなー(く笑い)という、ちょっとなんかのほほーんとやっておりますが。
4A いえいえいえ。
5B あれですか、どういった関係のお仕事ですか?。
6A あ、あのー会社自体はあのー食品を製造しているということで、ところで。
→7B へー。

例6 構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの:フィラーの場合(以下の波線部)

- 1A 不景気で(はい)なんか会社もなくて…。
2B あはーそうですか。
→3A /沈黙4秒/あの、あれですよ、なんか社会人が、1年目っていうのはかなり厳しいもんがありませんでした?。
4B 社会人…、そうですね。
5A うん何年目も厳しかったけど…(笑いながら)。

例 7 構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの:直接引用を含む発話文の場合(以下の波線部)

→1A であと一字を見ると“「姓1」さんですか”って、さい、大体最初(はい)聞かれて、で、“「姓1」さんですか”、(はい)“「姓2」さんですか”、(はい)で、中には“「姓3」さんですか”、/少し間/「息を吸い込んで」“どれも違うんだけど”(うんうんうんうん)とかって思い。

例 8 1発話文になりうる発話が間を入れずに繰り返されているために、それらをまとめて1発話文とみなすもの

1A かといって英語でしゃべろうとしても相手が英語できなかつたり(えー)すると。

2A だからちょっとー、ねー、せっかくなのにな(えー)コミュニケーションが(えー)図れないなと、
いうこともあってね。

3B まーあれですよ、一番上達するのってそういう場っていう話もね。

→4A そうなんです、そうなんです、そうなんです。

例 9 発話が一息に続いているため、1発話文と認められ、結果的に倒置の形になっているもの

→1A わたしは、あの、給与関係してるのでー、計算ばっかりなんです、事務が。

2B あーあー。

3A だから、あまりこう文章書いたり作成したりするってことが(うーん)めったにないんで…。

→4A 時たまあるんですよ、そういうもの作ってくださいって。

例 10 話者が一旦交替しても、同一話者によって発せられた「1発話文」とみなすもの(2-1と2-2とで1つの発話文とみなす)

1 A もう、もろ駅前商店街。

→2-1B 北浦とか、もっと、それよりもっと、

3 A そうそうそうそう。

→2-2B 駅前。

4 A あの、「店名」とかの近くです。

3. 改行の原則

基本的には、話者が交替するたびに改行する。しかし、話者が交替しなくとも、同一話者が複数の「発話文」を続けて発するときには、「発話文」ごとに改行する(例 11)。また、相手の発話に重なる短い小声のあいづち(ふーん等)や笑いは、()に入れて、相手の発話の中の最も近いと思われる場所に挿入する(例 12)。

例 11 同一話者が複数の発話文を話す場合

1A いや、や、や、やっぱり天気の方がいいかな。

→2B 天気の方がいいですね。

→3B 断然天気の方がいいですね。

→4B 洗濯物もよく乾くし。

例 12 改行しないあいづちや笑い(以下の波線部)

1A 僕自身は生まれも育ちも東京なんで、

2B はいはいはい。

→3A あのーなんも面白いことがない(笑い)っていう…。

4B どのあた、どのあたりですか?。

→5A えーと生まれたのが文京区で(はいはい)、でー幼稚園の(うん)年長の(うん)ときに板橋区高島平に、

4. 発話文終了に関する記号

1発話文が発せられている途中で相手の発話が入った場合、話者交替の改行原則により、改行されることになる。このように、1発話文が1ラインで終わらず、複数のラインにわたる場合がある。そこで、各ラインの

末尾に、発話文が終了しているか否を区別する記号をつける。以下に、順に説明する。

4.1 発話文終了の記号

1発話文が終了したところには、その最後に必ず句点「。」をつける。その発話文が叙述なら句点「。」のみをつける。質問、確認等なら、「？」とそれに続けて句点「。」をつけ、「?。」という形にする。なお、疑問の終助詞(「か」等)がなくとも、イントネーションや文脈により、明らかに質問、確認等をしていると判断できるものには、「?。」をつける(「お名前は?。」等)。「？」の後に、「。」をつけるのは、「。」の数が発話文の数を表すようにするためである。

また、1 発話文として認定された笑いは、その音声を記し、「〈笑い〉」の後に句点「。」をつけ、1発話文であることが分かるようにしておく(例 13)。

なお、発話文末が言い淀んでいると判断される場合は、「…」とそれに続けて句点「。」をつけ、「…。」という形にする(例 14)。

例 13 笑いのみの発話文

- 1A まー、まー自分自身ももう、学校でたら、ねー、こういう学問の世界とは(〈笑い〉)〈笑いながら〉ちょっと関係ない身分にあります(えーえー)ので、実用の世界にいる関係もありまして(あー)、なんかそういう研究をされ続けてるといのは、
→2B ははは(〈笑い〉)。

例 14 言い淀み:発話文末

- A それは、ちよつと…

また、会話の中では、第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した形になる場合がある。このような場合は、第1話者の発話が非意図的に終了し、発話文として終わったことを表す記号「【】」(全角)をつける。結果的に終了させられた第1話者の発話文の終わりには、「。」の前に、第2話者の発話が挿入されたことによって結果的に発話が終了したことを示す記号「【】」をつけ、第2話者の発話文の冒頭には、その発話が第1話者の発話途中に挿入され、第1話者の発話を終了させたことを表す記号「】」をつける。

例 15 第1話者の発話文が完結する前に、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合

- 1 A それは、高校、でも〈あの…〉{<}【】。
→2-1B 【】<現代国語っていうと、>{>}あの、国語の…、
3 A はい。
2-2B その、あっち、<だけですか?>{<}。

4.2 1発話文が複数のラインにわたる場合

1 発話文の途中に相手の発話が入った場合には、その途中の句末に英語式コンマ 2 つ「,,」¹をつけ、その発話文が終わっていないことをマークし、改行して相手の発話を記入する。その相手の発話の後に、改行して後に続く発話を記入し、発話文が終了したところに「。」か「?。」か「…。」をつける(5.1「発話文番号」、表1を参照)。

複数のラインにわたって記入された1発話文には、その複数のラインすべてに同じ発話文番号をつけ、ラインが変わっていても、それらの発話が「1発話文」を成していることが分かるようにしておく(「5.1 発話文番号」参照)。

つまり、1ラインの終わりには、必ず、句点(「。」、「?。」、「…。」)の3パターンか、英語式コンマ2つ「,,」¹のどちらかの記号がつくことになる。

¹改訂前は日本語式読点で統一していたが、発話文中の読点と、発話が終わっていないことを示す記号としての読点を区別するために改訂した。

5. 「発話文番号」と「ライン番号」²

BTSJ において、「発話文数」と「ライン数」は、会話に関する情報を異なった視点から捉えている。それぞれの視点に応じた分析ができるように、各ラインには、「発話文番号」と「ライン番号」という2通りの番号をつける(表1参照)。

5.1 「発話文番号」

「発話文」の数が分かるように、1つの発話文につき1つの番号を割り当てる。ただし、1発話文の途中で話者交替があつて改行された場合には、1発話文が数ラインにわたって記されることになる。その際、その複数ラインにわたっている発話が一続きの1つの発話文であることを示すために、該当する一連のラインに同じ発話文番号をつける。さらに、その1発話文内における各ラインの順番が分かるように、その中で通し番号(たとえば表1の発話文番号44-1、44-2、44-3)をつける。

また、句点「。」とは別に、発話文が終了していることを示す「*」を、「発話文終了セル」に記入する。つまり、発話文番号と「。」と「*」の数は必ず一致する。こうして、発話文の終了を「発話文終了」と「発話内容」と2つのセルで二重に確認し、記載漏れを防ぐようにする。さらに、発話文終了記号を記入しない場合には、「/」を記入する。なお、「/」は、コーディングにおいてコードを記入しない場合にも使用する(6.2.5で詳述)。

5.2 「ライン番号」

BTSJ では、発話文番号とは別にライン番号を設ける。ライン番号には、1ラインにつき1つの番号が割り当てられ、番号の若い発話が必ず先に発せられていることを示す。発話文番号においては、上述したように、トランスクリプトの中で番号の順序が入れ替わることがある(たとえば表1の発話文番号セルにおいて、45の後に44-2が、46の後に44-3がきている)が、ライン番号は、発話された順序を表すことができる。

表1. 「ライン番号」と「発話文番号」の1例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
43	43	*	YM01	どのあた、どのあたりですか？。
44	44-1	/	BM03	えーと生まれたのが文京区で、(はいはい)で一幼稚園の(うん)年長の(うん)ときに板橋区高島平に、
45	45	*	YM01	はいはいはい。
46	44-2	/	BM03	えー引っ越しをして、ですーっとそこで、暮らしてて、
47	46	*	YM01	うんうん。
48	44-3	*	BM03	でーまあ稼ぐようになってからはやっぱりひと1人暮らし始めたんですけど。
49	47	*	YM01	はいはいはい。

6. 表記方法と記号について

ここでは、BTSJ における表記方法の原則と、BTSJ で独自に用いる記号が意味するところについて提示する。まず、表記方法について説明し、次に、直接引用部、音声的情報、周辺言語情報、プライバシー保護といった、発話にかかわる様々な情報を記号化する方法を提示する。

6.1 表記方法の原則について

BTSJ における表記は、読みやすさを考慮し、基本的には、日本語表記として一般的な漢字仮名まじりの

² 改訂前は「レコード番号」という名称だったが、「レコード」は、「発話文」と同じ意味にとられやすい。ラインの順番を示す番号であるということより明確にするため、「ライン番号」と改称した。

形とする³。しかし、会話の音声的情報をできる限り正確に記述するため、複数の読み方があるもの（なんか、なにか、わたし、わたくし等）や、強調された発音（おっきな、ぜーんぜん等）、また、音が脱落したり、通常の発音からの逸脱が大きかったりするもの（せんせ（先生）、ふいんき（雰囲気）等）は、平仮名表記にする。また、通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、「 ’ ’」の中に正式な表記を記入しておく（例 16）。

例 16 通常とは異なる発音がされた場合

A ども‘どうも’、こんにちは。

長音の表記については、概ね、以下の原則にしたがう（例 17）。

例 17 長音の表記の原則

副詞 こう そう ああ どう

助動詞 よう そう

応答詞 ええ はあ

終助詞 ねー よー

あいづち えーえー はー

また、読み方が複数ある言葉（例 18）や視覚的に漢字で表したほうが分かりやすい言葉（例 19）、読み方を入れたほうが分かりやすい地名（例 20）などは、漢字で記した後、その読み方を平仮名で「 ’ ’」に入れて示す。

例 18 読み方が複数ある言葉

例 17-1 A 明日‘あした’のご予定は？。

例 17-2 A 明日‘あす’のご予定は？。

例 19 視覚的に漢字で表したほうが分かりやすい言葉

A あのちょうど丙午‘ひのえうま’の世代なんですよ。

例 20 読み方を入れたほうが分かりやすい地名

A 酒々井‘しすい’に行ったんです。

視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるものには、本や映画の題名（例 21）のような固有名詞や、発話者がその発話の中で漢字の読み方を説明した部分等（例 22）があるが、それらは、『 』でくくる。

例 21 A あの、『ノルウェーの森』ってありますよね。

例 22 A 宇宙の『う』です。

数字の含まれる言葉の表記は、実質的に数量・順序を表す言葉に関しては、算用数字を用い、漢字熟語の構成要素として用いる場合や概数を示す場合には、漢数字を用いることを基本とする（詳細は「〈付録〉数字の含まれる言葉の表記」参照）。

また、読点は、基本的に慣例に従って打つが、慣例にそぐわなくとも、「間」がある場合には打つ（例 23）。1発話文とみなされるものが倒置の形になっている場合は、発話文中に読点「、」を、発話文末に句点「。」を打つ（例 24）。倒置疑問の場合は、発話文中に「？」と記入する（例 25）。

例 23 間があると認められる場合の読点

A あー、した‘明日’です。

³ 主な使用言語を日本語とする研究者が多量のデータを処理する際は、ローマ字表記や平仮名表記よりも、より日常的に自然に用いられている表記法にしたほうが読みやすく、合理性を図ることができる。

例 24 1 発話文とみなされるものが倒置となっている場合

A 行きますよ、あしたは。

例 25 1 発話文とみなされるものが倒置疑問となっている場合

A 行くの?、あした。

また、後に説明する BTSJ で用いる記号は、但し書きのあるもの以外は、すべて半角で記入することを原則とする。

6.2 記号について

発話された音声やそれに関する情報を文字化資料として記述するには、それらの情報を表すための記号を用いることが必要である。そこで次に、直接引用部、音声的情報、周辺言語情報、プライバシー保護といった、発話に関するさまざまな情報を記述する際に必要な記号を提示していく。さらに、発話内容を何らかの観点からコーディングする場合に便利な記号の提示も行う。尚、BTSJ で用いる記号は、但し書きのあるもの以外は、すべて半角で記入することを原則とする。

6.2.1 直接引用部

引用とはある発話・思考の場で成立した(あるいは成立するであろう)発話・思考を新たな発話・思考の場に取り込む行為である(鎌田, 2000:17)。会話における話者本人のスピーチレベルの選択を分析するなど、研究目的によっては、発話文中から、直接引用部を区別しておく必要がある場合がある。そこでBTSJでは、間接引用部に対し、ある場面において発せられた話者自身や話者以外の者の思考・判断・知覚などの内容を、現在の発話の場面において、その時発せられたかのように発話している部分を、直接引用部と定義し、その部分を” ” でくることにする。

その発話が直接引用されたものかどうかは、声の調子や言葉遣いの変化などから判断する。実際の会話では、たとえば「あの結婚して下さいって<笑い>言っただけなんですけど…」という発話文において、話者が、下線部を、声の調子を変え、発話している場合には、下線部を直接引用部と認定し、その部分を” ” でくり、「あの” 結婚して下さい” って<笑い>言っただけなんですけど…」と記述する。

例 26 話者自身の思考・判断・知覚などの内容が直接引用された場合

A “うんーなんだこりゃー”って感じ。

例 27 話者以外の者の思考・判断・知覚などの内容が直接引用された場合

A って言ったら、“あー、講堂の、あの「講堂名」なんかかっていう有名な所でしょ”って
言われて…。

6.2.2 音声的情報

BTSJ では、発話の文脈や状況をできるだけ正確に伝えるための基本的情報として、イントネーション、ポーズや沈黙、ラッチング、言いよどみ、発話の重複、聞き取り不能な音などを記述する。そのために、BTSJ 独自の記号を用いる。以下、順に説明する。

① イントネーション

イントネーションは、特記する必要があると判断したものを、[↑][→][↓]で表す(例 28)。また、確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」には、「??」をつける(例 29)。

例 28 特記する必要があるイントネーション

A じゃあも、それだけがお仕事?。[→]

例 29 半疑問文

A いえ、わたし、あの一大塚??、なんです。

② 間、沈黙

話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際は、/少し間/と記すが、原則として、1 秒以上の「間」は、沈黙としてその秒数を「/沈黙 1. 5秒(秒数)/」のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1 発話文として扱い1 ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかが分かりやすいよう

に、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。

例 30 2人の発話の間に、沈黙が5秒あった場合

1A あの一、2ヶ月に1回です。

→2B /沈黙 5秒/ふうん。

③ ラッチング

改行される発話と発話の間が、当該の会話の平均的な間の長さより相対的に短い⁴か、間がまったくないことをラッチングとして、「=」という記号を用いて表す。これは、2つの発話(文)として、改行されていても、それら2つが音声的にほとんど間がなくつながって発話されたことを示すためである。改行されている2つの発話のラッチングは、同一話者のものにも、そうでない場合にも適用される。ラッチングは、最初のラインの終わりに「=」をつけ、続くラインの冒頭にも「=」をつけることによって表す。

例 31 →1A だってしょうがないでしょう=。

→2A =本人がそう言ったの。

④ 言い淀み

発話文中、文末に関係なく、音声的に言い淀んだように聞こえるものには「…」をつける。もし言い淀みが発話文中にあれば、「…」に読点をつけ「…、」という形にし、その後の語句を続けて記入する。

音声的に言い淀んだように聞こえるものがあった場合

例 32 A 目白ですと、バス…、ですか？。

例 33 A それはまた学校で充電しといて、また帰りは、って…。

⑤ 発話の重複

同時発話されたところは、重なった部分双方を〈 〉でくくり、重ねられた発話には、〈 〉の後に、{ }をつける。また重ねた方の発話には、〈 〉の後に、\}をつける。

例 34 2人の発話が一部重なった場合

→1A それは、それは、〈ごくろうさまです〉{ }。

→2B 〈いえいえ〉\}。

⑥ 聞き取り不能

聞き取り不能であった部分に、その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。

例 35 →A わたしなんか、#####全くないもんね。

6.2.3 周辺言語情報

笑いや、相手の発話に重なる短いあいづちなどの周辺言語情報については、以下のように記す。また、「文脈情報」は、分析者の覚書きとして、分析者が必要だと判断した情報を、分析者自身が分かりやすい書き方で、記しておく。

① 相手の発話に重なる、短いあいづち

相手の発話に重なる、短く、特別な意味を持たないあいづちは、相手の発話中の最も近い部分に、()にくくって入れる。

例 36 A わたしは、あの、小学部中学部にいたん(ふうん)ですけれども。

② 笑い

笑いながら発話したものや笑い等は、〈 〉の中に、〈笑いながら〉、〈2人で笑い〉などのように説明を記す。笑いが比較的はっきりと聞こえる場合は、〈はははは〉などのように記す。笑い自体が何かの返答になっているような場合は1発話文とするが、基本的には、笑いを含む発話中か、その発話文の最後に笑いに関する情報を記し、その後には句点をつける。

⁴ 表計算ソフトでは「=」が数式と判断される。それを避け文字として認識させるため、「=」の前に「'」(アポストロフィー)をつけるなどの処置をする。こうすると、紙面上には「=」だけが表れる。

例 37 A え、あの意外と集中できるんですねえ<笑い>。

例 38 A 資源効率的に使おうと思えば、<笑いながら>それしかないわけですから。

また、相手の発話の途中に、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、<笑い>とする。

③ 文脈情報

その発話がなされた状況ができるだけ分かりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを、研究者が分析の際のメモとして活用できるように記しておく

例 39 [ささやくように]、[息を吸い込みながら]、[大きい声で↑]、[飲み物を飲む音]等。

例 40 A こたつから根生やしてんじゃないか<笑いながら>って父親と弟は一切動かない。[不満を打ち明ける感じで]

また、文字化資料を読むだけではわかりにくい発話について、説明を記す。

例 41 B 制度わかる?。[留学先の日本語クラスのレベル分けを知っているかと尋ねている]

6.2.4 プライバシー保護

会話の内容は協力者のプライバシーに関わるため、BTSJ では、会話の内容をそのまま文字化したトランスクリプトと、公開用のトランスクリプトと、2通りのトランスクリプトを用意する。公開用トランスクリプトでは、協力者のプライバシーに関わる固有名詞などを明記しないようにする。例えば、初対面の会話においては、話者の名前の説明が行われたり、それにまつわるエピソードが話題になったりすることがあるが、そのような場合の、プライバシー保護を考慮した表記の例を以下に示す。また、その他の固有名詞(「企業名」「大学名」「地名」など)についても、会話の流れから協力者が特定できる場合には、話者の名前と同様に明記しないように処理する。

- ① BTSJ では、公開用のトランスクリプトにおいて、話者は、アルファベットなどに記号化して示すことを原則とする。その際に、話者の属性を表す記号を用いると話者同士の関係がすぐわかり、便利である。例えば、ある男性話者の言語行動が異性の対話相手の年齢に応じてどのように変化するかを分析する際、その男性の話者を、BM(Base Male)とし、対話相手となる年上の女性を OF (Older Female)、同年の女性を SF (Same-age Female)、年下の女性を YF (Younger Female) などと記号化する。また、日本語と韓国語の対照研究をする場合は、日本語母語話者を J (Japanese)、韓国語母語話者を K (Korean) としたり、母語話者と学習者の会話を研究対象とする場合は、母語話者を NS (Native Speaker)、学習者を NNS (Non-Native Speaker) としたりするなど、任意の記号を用いて表す。目的に応じては、「A」「B」といったアルファベットを用いても、「田中」「佐藤」などの仮名を用いてもよい。
- ② 名乗り方に応じて、「BM03 姓」「BM03 名」「BM03 フルネーム」というように記す (例 42)。
- ③ 姓や名に使われる漢字が 2 つ以上出てくる場合は、「漢字 1」「漢字 2」のように記す (例 43)。
- ④ 自分の名前に使われている漢字の説明のために、具体的な熟語などを用いた場合、それを明記しないように、「漢字 1 を含む言葉」などと記す (例 44)。
- ⑤ 固有名詞を発音している際、その一部が相手の発話に重複している場合には、アルファベットの「N (Name)」を用いてその拍数を示し、どの部分が重複しているか明確にし、その後に伏せられた固有名詞が何のことであるか分かるようにしておく (例 45)。
- ⑥ 会話に、名前の読み方に関するエピソードが含まれており、名前の読み方が複数出てくる場合は、「姓 1」「姓 2」というように記す (例 46)。
- ⑦ 「会社名」や「大学名」などの組織の名称、話者の出身県を含む「地名」等の記述に関して、話者のプライバシーに関わる場合は、「地名 1」のように伏せて記す。(例 47)。

●話者の名前が話題になっている場合

[^{やまざき}山崎さん: 山→「漢字 1」、崎→「漢字 2」]

例 42 名乗り方に応じた記し方

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 42-1 OF01 /沈黙 6 秒/山崎と言います。

<公開用トランスクリプト>

例 42-2 OF01 /沈黙 6 秒/「OF01 姓」と言います。

例 43 姓や名に使われている漢字が 2 つ以上出てくる場合

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 43-1 BM02 崎は普通の。

OF01 山偏の<崎です>{<}

BM02 <山偏の>{>}崎で。

<公開用トランスクリプト>

例 43-2 BM02 「漢字 2」は普通の。

OF01 山偏の<「漢字 2」です>{<}

BM02 <山偏の>{>}「漢字 2」で。

例 44 自分の名前に使われている漢字の説明

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 44-1 OF01 山は、あの、富士山の山です。

<公開用トランスクリプト>

例 44-2 OF01 「漢字 1」は、あの、「漢字 1 を含む言葉」の「漢字 1」です。

例 45 固有名詞の一部が相手の発話に重複している場合

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 45-1 BM01 やまざき<さ>{<},,

OF01 <や>{>}まざき。

BM02 山崎さん。

<公開用トランスクリプト>

例 45-2 BM02 「OF01 姓」<さ>{<},,

OF01 <N>{>}NNN。[OF01 姓を 1 拍ずつ発音する]

BM02 「OF01 姓」さん。

^{しろみず}

[白水さん(仮名)]

例 46 名前の読み方が複数出てくる場合(以下の波線)

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 46-1 BM03 であと一字を見ると“しろみずさんですか”って、さい、大体最初(はい)聞かれて、で、“しろみずさんですか”、(はい)“しらみずさんですか”、(はい)で、中には“はくすいさんですか”、/少し間/[息を吸い込んで]“どれも違うんだけど”らうんうんうん)とかって思い。

YM01 そっかー、初めてですよ。

BM03 ええ。

BM03 いや、今日困ったのが、今日あの一朝来るとき、えー来る前かな、(はいうん)あの一選挙があったんで、(はい)投票所行って、(はい)で一選挙人名簿見たら、“しろみずさんですか”、『あの一すいませんしろみずなんです(笑い)』けど』って。

<公開用トランスクリプト>

例 46-2 BM03 であと一字を見ると“「姓 1」さんですか”って、さい、大体最初(はい)聞かれて、で、“「姓 1」さんですか”、(はい)“「姓 2」さんですか”、(はい)で、中には“「姓

3]さんですか”、/少し間/息を吸い込んで『どれも違うんだけど』『うんうんうんうん)とかって思い。

YM01 そっかー、初めてですよ。

BM03 ええ。

BM03 いや、今日困ったのが、今日あの一朝来るとき、えー来る前かな、(はいうん)あの一選挙があったんで、(はい)投票所行って、(はい)で一選挙人名簿見たら、“[姓1]さんですか”、『あの一すいません「BM03 姓」なんです(笑い)けど』って。

●名前以外に、会話の流れから協力者が特定できる可能性のある固有名詞の場合

例 47 BM01 ウ冠に「漢字6」・・・、あれ、昔「企業名」があったところ?<>。

SF01 <そうそう><>です、「地名1」です[BM01 が息を吸う音]、うん。

BM01 はあ、はい、へえ。

6.2.5 記入しないセルにつける記号

発話文終了や、コーディングにおいてコードを記入しない場合には、記載漏れとの混同をさけるため半角の「/」(スラッシュ)を入れる。5.1 で示したように、発話文終了記号を記入しない場合には、セルに「/」を記入する。また、コーディングを行わないラインにも用いる。例えば、スピーチレベルのように発話文ごとにコーディングを行う場合、発話文が終わっていないライン、すなわち末尾に「,,」があるラインは、コーディング対象とならないため空欄になる。このように、部分的に空欄があると、コーディングをし忘れた欄であるかのような誤解を生んだり、コーディングを行うべきラインがずれるというミスを生じたりする。それを防ぐために、コーディングを行わないラインについては、「/」を入れることにする。

表 2. コーディングを行わないラインのセルに半角/(スラッシュ)を入れた場合

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	発話文全体 POL	発話文末 POL
25	24	*	A	電車の混みもそんなに・・・?	NM	NM
26	25	*	B	そう・・・<です><>。	P	P
27	26-1	/	A	<いや、><>今日から、夏休みじゃないですか,,	/	/
28	27	*	B	あー、<そうですねー><>。	P	P
29	26-2	*	A	<子供たちは><>。	P	P
30	28	*	A	ですから(うーん)、混んでるのかなと思ってたんですけどね。	P	P

7. 記号凡例

これまでに提示してきた BTSJ で用いられる記号を以下にまとめる。はじめに、BTSJ に基づいて文字化される際の基本的な記号を挙げる。

尚、以下の記号は、「検索」などの際に漏れがないよう、但し書きのあるもの以外は、「半角」で統一することを原則とする。

発話文終了に関する記号

- * 発話文が終了するごとに、「*」を「発話文終了」セルに記入する。つまり、発話文番号と発話内容中の句点「。」と「*」の数は必ず一致する。このように、「発話文終了」と「発話内容」と2つのセルで二重に確認する。
- / 発話文終了や、コーディングにおいてコードを記入しない場合には、記載漏れとの混同をさけるため、「/」を記入する。

発話内容の記述に関する記号

- 。 [全角] 1 発話文の終わりにつける。
- ,, 発話文の途中で相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつけ、改行して相手の発話を入力する。
- 、 ①[全角] 1 発話文および1ライン中で、日本語表記の慣例の通りに読点をつける。
②発話と発話のあいだに短い間がある場合につける。
- ‘ ’ ①複数読み方があるものを漢字で表す場合、最も一般的な読み方ではなく、特別な読み方で発せられたことを示すために、その読み方を平仮名で‘ ’に入れて示す。
②通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、‘ ’の中に正式な表記をする。
- 『 』 視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるもの、例えば、本や映画の題名のような固有名詞や、発話者がその発話の中で漢字の読み方を説明したような部分等は、『 』でくくる。
- ” ” 発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が引用された場合、その部分を” ” でくくる。
- ? 疑問文につける。疑問の終助詞がついた質問形式になっていなくても、語尾を上げるなどして、疑問の機能を持つ発話には、その部分が文末(発話文末)なら「?。」をつける。倒置疑問の機能を持つものには、発話中に「?。」をつける。
- ?? 確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
- [↑][→][↓] イントネーションは、特記する必要があるものを、上昇、平板、下降の略号として、[↑][→][↓]を用いる。
- /少し間/ 話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
- /沈黙 秒数/ 1秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を左記のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1発話文として扱い1ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかを同定できるように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。
- = = 改行される発話と発話の間(ま)が、当該の会話の平均的な間(ま)の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける。これは、2つの発話(文)について、改行していても音声的につながっていることを示すためである。その場合、最初のラインの発話の終わりに「=」をつけてから、句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。そして、続くラインの冒頭に「=」をつける⁵⁾。
- … 文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるものにつける。
- < >{ } 同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{ }をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。ま

⁵⁾注4に同じ。

た重ねた方の発話には、〈 〉の後に、{}をつける。

- 【 Ⅱ】 [全角]第1話者の発話文が完結する前に、途中で挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合は、「【 Ⅱ】」をつける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【 Ⅱ】をつけ、第2話者の発話文の冒頭にはⅡ】をつける。
- [] 文脈的情報。その発話がなされた状況ができるだけわかりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどをそのラインの一番最後に記しておく。
- () 短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、()にくくって入れる。
- 〈 〉 笑いながら発話したものや笑い等は、〈 〉の中に、〈笑いながら〉、〈2人で笑い〉などのように説明を記す。笑い自体が何かの返答になっているような場合は1発話文となるが、基本的には、笑いを含む発話中か、その発話文の最後に記し、その後句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。
- (>) 相手の発話の途中に、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、(>笑い)とする。
- # 聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。
- [] トランスクリプトを公開する際、固有名詞等、被験者のプライバシーの保護のために明記できない単語を表すときに用いる。

8. 入力書式

トランスクリプトの共有のため、また、複数の研究者が処理を行う際の効率化のため、入力書式を統一しておくことを勧める。基本的には、日本語の一般的な表記の原則に基づいて、文字(漢字・仮名)および付属記号(読点「、」、句点「。」)は全角で入力する。しかし、英数字および記号の表記は半角とする(ただし、BTSJで用いる記号の中には、全角でしか表せないものもある)。トランスクリプトの保存にあたっての詳細な形式は、以下の通りに統一する⁶。

8.1 保存形式

基本的に、1つのトランスクリプトを1つのシートに保存する⁷。その際、共有された複数のトランスクリプトから個別のものを区別・認識するために、各トランスクリプトには話者の記号、作成者の氏名、日付(年・月・日; 00年00月00日)を記して保存する。

例48 BF01-SM03 外大花子 020628

(BF01とSM03は話者を示すための記号の1例である: 以下同様)

ただし、作業途中のトランスクリプトについて、1会話に複数の作業者がいる場合や1人の研究者が複数のトランスクリプトを処理している場合は、会話別に文字化の作業順番・作成者の氏名を明記し、異なる保存名で残す。

例49 BF02-SM03 (1次) 外大花子 020628

BM01-SF01 (2次) 府中太郎 020724

8.2 書式の設定

ブックの中のシートの書式は以下のように統一する。

1) シートのヘッダー: シートの上部、中央に話者記号を記す。さらに、文字化した部分の開始からと終了までの時間を正確に測り、()の中に記入する。そして、会話が最後まで文字化された場合は「終」と記し、続きがある場合には「続」と記す。

例50 BF01-SM03(0'00"-3'20"): 続

(BF01とSM03の会話を最初から3分20秒まで文字化した、その後文字化されていない部分が残っていることを表す。)

また、会話の情報(会話を収集した目的、全何会話のうちの何会話目か、話者の属性、話者の記号の意味等)を書く。

2) シートのフッター: シートの右下には、このシートに関する文字化の作業情報を、作業回数、作業者の氏名、作業を終えた日付の順に記しておく。文字化作業が複数回、または複数の作業者によって行われた場合は、前に行われた文字化作業情報の後に最新の情報を付けたし明記する。

例51 1次: 外大花子(030915)、2次: 府中太郎(030925)、3次: 朝日町子(031001)

3) シートの余白: 原則として、上は3センチ、下は2センチ、左右は2センチに設定する。

4) フォント: 「MSP 明朝」、サイズは10を採用する。

5) セルの基本項目: 「ライン番号」「発話文番号」「発話文終了」「話者」「発話内容」の5つを設ける。「ライン番号」「発話文番号」「発話文終了」項目は上述した説明にしたがって記入する。「話者」項目には、各々の話者名を記号化し、記入する。「発話内容」項目には、録音された会話を文字化したものを記入する。

6) セルの幅: 原則として、「発話内容」項目のみ55、他の項目はすべて5に統一する。また、「書式設定」で「折り返し表記する」を選択し、幅を調整する。

7) 色分け: どの話者による発話であるかが分かりやすいように、各ラインを、話者ごとに色分けする。

⁶以下の「ブック」、「シート」、「セル」などは、表計算ソフト上の名称である。

⁷例えば、エクセルを使用する場合、1つのトランスクリプトを1つのシートに保存する。エクセルの1つのブックの中には基本的に3つのシートが存在するが、会話データが入っていない余分のシートは、保存容量を大きくするだけであるから、削除しておく。

以下、図1に全体の書式、表3にトランスクリプト例を示す。

社会人初対面女性ベース(1-72) 会話番号: 6		BF02-YF01(3'11"-5'17"):続		BF: 日本人女性ベース YF: 年下の女性話者 1会話における話者の数: 2人		
上の余白: 2cm						
左: 1.5 cm	ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	右: 1.5 cm
	90	88	*	BF02	くどうも、ほー、いや、わたし自分が女の子がいて思ってたから、女の子の子つと(あー)思ってたんですけども、(ええ、ええ)男の子で、ええ。	
	91	89	*	BF02	ただ、まー主人とか、(ええ、ええ)うちの父とかは喜んでましたけどね。	
	92	90	*	YF01	あー、男の子を…。	
下の余白: 2cm						
1次: 外大花子(030915) 2次: 府中太郎(030925) 3次: 朝日町子(031001)						

図1. 全体の書式

表3. トランスクリプト例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
1	1	*	SM01	どうも、こんにちは。
2	2	*	BM02	はじめまして。[無声]
3	3	*	SM01	<こんにちは>{<}</>。
4	4	*	BM02	<どうも>{<}</>。
5	5	*	SM01	どうも。
6	6	*	BM02	「BM02 姓」と申します。
7	7	*	SM01	あ、あのう私、「OM01 姓」と申します。
8	8	*	BM02	あ、「OM01 姓」さん。
9	9	*	SM01	ええ。
10	10	*	SM01	あの、お勤めですか<笑い>。
11	11	*	BM02	ええ、まあ、ちょっと、勤、めてますけど。
12	12	*	SM01	はあ。
13	13	*	BM02	え、お、お勤めです、ええ。
14	14-1	/	SM01	今日は、日曜日で、
15	15	*	BM02	あー、大変ですね、っていうか。
16	16	*	SM01	はあ。
17	14-2	*	SM01	時間があるっていったら、こういうことになったんですが<軽く笑いながら>。
18	17	*	SM01	はい。
19	18	*	SM01	あの、普通に、とうきょうで、<働いて>{<}</>【。
20	19	*	BM02	】<そうですね、>{<}</>東京で、ええ、働いています。[働いています、はほとんど聞こえないかすれ声で]
21	20	*	BM02	東京…で?。[→]
22	21	*	BM02	ええ。
23	22	*	SM01	はい。
24	23	*	SM01	まあ、家は埼玉なんですけれど。
25	24	*	BM02	じゃ、通い、は大変ですか?。[↓]
26	25	*	SM01	そうですね、まあ、ふつうの通勤電車に乗って、来るような感じなんですけど。
27	26	*	BM02	京浜東北か埼京線かなんかですか?。[↓]
28	27	*	SM01	そうですね、それで、来てますけど。
29	28	*	SM01	/少し間/あの、どこでっていうか、働いて<らっしゃいますか?>{<}</>。
30	29	*	BM02	<いや、>{<}</>私、は、自転車で。
31	30	*	SM01	ああ、いいですね。
32	31	*	BM02	ええ。
33	32	*	SM01	私も駅までは自転車なんですけど、そっからさらに電車に乗ってくるんですけど。
34	33	*	SM01	[録音機の変な音]####ですか。
35	34	*	SM01	えっ、住まいも東京ですか?。

36	35	*	BM02	そう、ええ、そうですね。
37	36	*	SM01	もうずっと…。
38	37	*	BM02	あ、わたしは、まああの、大学が北海道で(ああ)、ええ。
39	38	*	BM02	あと、4年ほど鳥取に。
40	39	*	BM02	関東ですか？。
41	40	*	SM01	そうですね、あの、まあ、生まれは九州だったんですけど。
42	41	*	BM02	あそうですね。
43	42	*	SM01	その次には、もう、もの、思いついたところから、物心がついたところから、もう、基本的には、埼玉育ちで、はい。
44	43	*	SM01	北海道が、あつても、や、それは4年間行っていただけなんですか？。 [→][ですか、はほとんど聞えない]
45	44	*	BM02	え、そう、そうですね。
46	45	*	SM01	は一。
47	46	*	SM01	は一、鳥取というのは、また、かい、会社かなんかで。
48	47	*	BM02	ええ、まあ、最初の勤め先だったんですけど…。
49	48	*	SM01	はあ。
50	49	*	BM02	九州は、どこですか？。
51	50	*	SM01	あの、北九州の、隣にある、もうがたつてところがあるんです。
52	51	*	BM02	北九州、市…。
53	52	*	SM01	そうですね(ああ)、はい。
54	53	*	BM02	もうがた…、分かんないな…。[ほとんど消え入りそうな声]
55	54	*	SM01	いったことありますか？。[→]
56	55	*	BM02	いや、小倉、と、北九州、福岡、ちょっといったことあるんですけど。
57	56-1	/	BM02	最近は何か福岡が、すごいなんていうか、発展して、
58	57	*	SM01	そうですねー。
59	56-2	/	BM02	北九州市やなんか、の方は、なんか<軽く笑う>、
60	58-1	/	SM01	ちょっとさびれてくると<く>、
61	56-3	*	BM02	<さびれて><く><笑い>。
62	58-2	*	SM01	言われてたんですけど、あの一何か、モルルールができたりとかして。

9. BTSJ にそった会話の文字化資料を用いた研究の例

本節では、「基本的な文字化の原則(BTSJ)」によって文字化した資料を用いて行う分析例を紹介する。BTSJは、その名の通り、「基本的な文字化の原則」であり、汎用性を念頭において構築されたシステムである。それに加えて、特定の研究の目的に応じて、例えば、より詳細な音声情報を付加するなど、BTSJを基本にしつつも、特定の目的に適した独自の記号を設けることを奨励するものでもある。ここではその一例として、個々の目的に応じて分析対象を何らかの観点からコーディングする際の工夫のし方を提示する。9.1では聞き取れない箇所「#」を含む場合のコーディングについて、9.2では1ライン中に分析対象である要素が複数ある場合のコーディングについて述べる。9.3では引用部のスピーチレベルを分析する場合のコーディング例について述べる。

9.1 聞き取れない箇所「#」を含む場合のコーディング

発話文中に聞き取れない箇所が含まれている場合には、個々の研究目的に応じて対応する聞き取れない箇所が含まれていてもコーディングに支障がない場合にはコーディングを行い、聞き取れない箇所の内容が分からないと判断できない場合には行わない。

ここで、スピーチレベルの分析において、「#」の含まれる部分に、コーディングを行う場合と行わない場合が生じるという例を取り上げる。

初対面二者間会話において、会話参加者の発した発話文を対象に、それぞれの発話文に現れた言語形式の丁寧度をもっとも高いものをコーディングするという分析方法があり、「発話文全体」と「文末」という2つの項目についてコーディングが行われる。いずれの項目についても、丁寧度の高い順に「S」、「P」、「N」とコーディングされ、さらに丁寧度を表すマーカがない場合には「NM」とコーディングされる。聞き取れない箇所「#」を含む発話文については、はっきりと聞き取れる部分のみでコーディングの可能性が1つに特定できるのであればコーディングを行い、聞き取れない箇所「#」の内容によって複数のコーディングの可能性が考えられる場合はコーディングを行わない。

①「発話文全体」と「文末」の双方がコーディング可能である場合

例 52 どちらに####ですか?。

まず「発話文全体」について考える。「どちら」という言語形式は、「S」とコーディングされることになっている。この分析方法では、最も丁寧度の高いものをコーディングするから、「S」となる言語形式が現れれば、それ以上になることはない。つまり、聞き取れない箇所「#」の発話内容が何であっても、他のコーディングがなされる可能性はない。また、この発話文においては、文末の発話内容は文字化されているため、その部分の丁寧度を判断することは可能である。

②「発話文全体」と「文末」の双方がコーディング不可能である場合

例 53 どこに住んで#####か?。

「発話文全体」について、この例で文字化されている部分には、上の例のように「S」とコーディングされるべき言語形式は現れていない。もし聞き取れない箇所「#」の内容に丁寧度の高い言語形式が含まれていたら、コーディングが変わることになる。つまり、聞き取れない箇所「#」の発話内容しだいで、複数のコーディングの可能性が考えられる。また、この例では、聞き取れない箇所「#」の中に、文末と考えられる要素が含まれている可能性もあるため、「文末」のコーディングは不可能である。

③「発話文全体」と「文末」のどちらか一方がコーディング可能である場合

例 54 どちらにお住まい####。

「発話文全体」については、最も丁寧度の高い「S」にコーディングされることになっている「どちら」という言語形式が現れているため、聞き取れない箇所「#」内容次第で別の可能性が生じることはない。また、「文末」については、その部分が完全に聞き取れていないため、コーディングする判断材料がない。

9.2 1ライン中に分析対象である要素が複数ある場合のコーディング

その研究者が扱う分析対象とする要素が、場合によっては、1発話文中、あるいは通常の1ライン中に複数現れることがある。複数の要素をコーディングするのに1つのセルしか用意されていないと、コーディン

グができない。このような場合には、個々にコーディングができるように、各当該項目の後ろに「//」をつけて改行し、1つの要素につき1つのコーディングセルを割り当てる。つまり、「//」は、BTSJにおける本来のルールでは改行されないが、コーディングの便宜上改行されているものであることを示すものである。ここでは、「//」を用いて便宜的に改行する場合の具体例として、あいづちの扱い方を取り上げる。あいづちについても、様々な観点から、個々の研究者の目的に応じた分析がされ得るが、ここでは、その一例として、相手の発話に重なる短い小声のあいづちまで含めて分析対象とする場合のコーディング例を提示する。

1ライン中に複数のあいづちが現れた場合、1回のあいづちにつき1つのコーディングセルを割り当てるためには、あいづちが現れたところでそのつど改行することになる。改行した際には、その発話文がまだ終了していないことを明示するために、ラインの末尾には「,」を付ける。本来は1発話文であるため、発話文番号は同じであるが、「//」をつけて改行された発話の順番が分かるように、発話文番号に記号を付け加える。この際、複数ラインにわたる発話文番号の通し番号と区別するために、アルファベットなどを用いる。表4に、「あいづち」をコーディングする場合の「//」の使用例を示す。

表4. コーディング項目が1発話文中や1ライン中に複数出てくる場合

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
11	11-a	/	A	たーだ、その中にいろいろな人の原稿の鋳型、があ(うーん)//,,
12	11-b	/	A	入っているのでー(うん)//,,
13	11-c	/	A	それがなくなってしまうとー、またー、1から(あー)//,,
14	11-d	*	A	その原稿そのものの1ページの行数や文字指定を、し、直さなければ(あー)、ならないね、その、各ページの、規定によって。

9.3 引用部のスピーチレベルを分析する場合のコーディング

BTSJでは、発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が直接引用された場合、その部分を” ” でくくることになっている。この記号を利用してコーディングをする際の具体的な例として、スピーチレベルの分析を紹介する。9.1 節でも紹介した、言語形式の丁寧度が最も高いものをコーディングするという分析方法に沿って述べる。

会話参加者が発した発話文には、会話参加者やそれ以外の者の引用部が含まれる場合があるが、会話参加者がその会話において発した「発話文」のスピーチレベルをコーディングするためには、基本的に、” ” でくられる引用部はコーディングの対象外となる。しかし、研究目的によって、「発話文全体」のスピーチレベルと「引用部」のスピーチレベルとの差を分析するなどという場合には、別に「引用部」のスピーチレベルをコーディングするセルを設ける。表5に、「引用部」セルを追加した場合のコーディングのし方を示す。

表5. 発話文全体のスピーチレベル(発話文全体POL)と引用部のスピーチレベル(引用部POL)のコーディング

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	発話文全体POL	引用部POL
21	21	*	A	なんか、〈笑いながら〉”やはりちょっと進め方が違うな”という気がしました〈けど〉。	P	N

<付録> 数字の含まれる言葉の表記

(1) 算用数字で表記するもの

①横書き表記の場合、算用数字(アラビア数字)は漢数字(一、二、三)より理解しやすいため、基本的には算用数字を用いる。

例1 助数詞を伴う数字

1年、1回、1台、1家族、1種類、1周年、1区間、1品目、1段階、1機種、1系統、1工程

② 大きな数を書き表す場合について、算用数字で記すことのできるものは算用数字で記す。

例2 「万、億、兆」などの大きな単位

5万、31万7,000、1,500万、1兆5,000億

例3 「十、百、千」の単位

50、300、4,000

(2) 漢数字で表記するもの

① 漢数字その者が漢字熟語の構成要素として用いられている場合(数字の意味が、数量、順序を示す用い方から離れて、特定の意味を持っているときは)、漢数字を用いる。

例4 漢字熟語

「一般、一定、一端」、「万一、均一、唯一」、「一面識、一喜一憂、一挙手一投足」

例5 数字の意味合いの強い漢字熟語も、基本的には漢数字で書く

一周忌、一戸建て、一番乗り、一日署長、一家心中、第一線、世界一周、一万円札

②概数を示す場合は漢数字で書く。

例6 「数十日」、「四、五人」、「五、六十万」

* (1)②については文化庁(1995)を、その他の部分については文化庁(1991)を参照した。

参考文献

文化庁編(1995)『言葉に関する問答集 総集編』、大蔵省印刷局

文化庁編(1991)『公用文の書き表し方の基準(資料集)増補版』、第一法規出版

日本語教育学会編(1982)『日本語教育事典』大修館書店、「引用」の項、小谷野哲夫執筆、p. 187)

鎌田修(2000)『日本語の引用』、ひつじ書房